

事業実施報告

開催日	令和6年1月20日（土）～令和6年1月21日（日）		
事業名	親子ウインターキャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家 雫石スキー場	参加人数	13家族37名
対象	スキー初心者の家族（小学校1～4年生の子供とその家族）		
関係機関名	インターアルペン雫石スキースクール（事前指導・スキーレッスン）		

状況報告 （事業の内容・事業の成果と課題について記載）

〔事業の内容〕

1泊2日の日程で、そり作り・そり滑り・インターアルペン雫石スキースクール講師による事前指導・同スクール講師による家族ごとのスキーレッスンのプログラムを行った。

そり作りでは、段ボールや緩衝材、ビニール袋等を使用して、家族ごとにそりを手作りした。カラーガムテープやペンでの装飾で創意を加え、親子で共通したものづくりを楽しんでいる様子が見られた。

そり滑りでは、製作した手作りそりを使用し、職員の安全管理のもと、家族ごとに楽しんだ。

スキースクール講師による事前指導では、体育館に敷いたマットの上で、実際にスキーを着脱したり、スキーを履いて方向転換をしたりした。

二日目の雫石スキー場では、前日の事前指導で学んだことを生かしながら実際にスキーレッスンを行った。スキースクール講師による家族ごとの指導の中で、子どもへの技術的な指導だけでなく、親へスキー場での子どもとの関わり方を伝えている場面が見られた。

〔成果〕

・事業後のアンケートにおいて、「今後、家族でスキーを行おうと思いますか」の設問に対して、「したい」「ややしたい」を合わせて100%であった。これにより、家族での体験活動を継続して行いたいという意欲を高めることができたと考えられる。

・そり作りでは「自分の手作りのそりが出来たことに喜びを覚え、最後まで手作りそりで滑っていました」などの肯定的な感想が多かった。家族で協力して製作し、作ったそりがよく滑ることを実感しながら楽しむことができた。

・スキーについては、「事前にスキーの履き方などに慣れておくことが出来て、雪が降っていても焦らず対応出来て良かったです」などの感想があった。初心者にとってのスキーに対するハードルを下げ、家族でまたスキーに行ってみようという意欲の向上につなげていくことができたと思われる。

〔課題〕

・ファミリータイムの体を動かす場面で、子供が緊張して自分から動き出すのに時間がかかる家族が見られた。緊張をほぐし、積極的にプログラムに参加してもらうために、他家族と交流できるレクリエーションを取り入れるのも効果的であると感じた。

・暖冬のため、そりすべり場の積雪状態が不安定であった。今回の事業は問題なく実施できたが、天候等の理由により当日そり滑りが実施できなかった場合の代替プログラムを考えておくべきであった。

状況写真



手作りそりを製作



手作りそりでそり遊びを楽しむ



ファミリータイムで用具に慣れる



ファミリータイムで練習



スキー場で歩く練習をする



リフトに乗って家族ごとにレッスン